



新年度に向けて

会長 高橋光男

会員の皆様、お変わりないですか。
26年度の作品展も盛況のうちに終了し、冷たい粘土の作陶を躊躇していた時季が過ぎ、作品づくりの精を出す頃となりました。

さて、27年度は、本会の設立から41年目の年になります。この時期を一つの節目として、状況の変化に対応しつつ次の節目の継続的な活動を行うための工夫を話し合う良い機会としての記念行事を本年秋季ごろに企画します。会の活力は会員皆様の作陶への意欲が全てですので、企画がありましたら提案をお寄せください。お待ちしております。

専修部、事業部の催しも含めて会員皆様の制作活動に多くの支援をしていきたいと思っております。27年度の作品展に向けて作陶いたしましょう。

「第三十六回作品展」の事業報告

会員皆様方のご協力をおもちまして、「第三十六回作品展」も無事、終了することができました。ありがとうございました。



第 161 号

平成 27 年

4 月 1 日発行

今年度は、昨年度と同じ会場の「かなつくホール」なので見通しを持って作品の搬出入や展示をスムーズに行うことができました。

会員数の減もあり、出展者が少なくなるのかと心配しましたが、昨年より一名減っただけでした。出展作品数の大幅な減もなく、展示途中で机を追加するほどでした。



今年度は「出展作品一覧」をパウチせず、パスカードを使用したり「伝言メモボード」を利用したり、作品受付順番を係優先にしなかつたり、案内はがきを手分けして書くために「芳名帳カード」にしたりしました。

これからも皆様のご意見をお聞きし、作品展に活かしていきたいと思えます。

今回の作品展の搬出時、大事な作品が壊れてしまいました。いつも、「大事な作品を片づけてから」と、お願いしているのですが、反省しています。申し訳ありませんでした。今後は、搬出時、全員の作品片づけを確認してから搬出作業に入りたいと思えます。深く、お詫びいたします。

来年度は「友の会 創立四十周年」です。来年度も会員皆様方のすばらしい作品が、たくさん出展されることを期待しております。

【事業報告】

会 期 平成 27 年 1 月 13 日(火) ～ 18 日(日)

6 日間

会 場 かなつくホール 3 階ギャラリー A

入場者数 755 名

出展者数 40 名

出展作品数 366 点

懇親会参加者数 17 名 (大洋)

当番人数

今年度は、当番表を作成後、当番の足りない日がありましたので当番に入られていない方全員に電話でお願いしました。ご協力ありがとうございました。

会員皆様の「作品展」です。来年度はぜひ、出展された方は、会期中に半日でもよろしいのでお手伝いをお願いいたします。

今年度の責任者も含めた当番人数

13 日(火) (6 人) 14 日(水) (5 人)

15 日(木) (10 人) 16 日(金) (6 人)

17 日(土) (11 人) 18 日(日) (10 人)

来年度の特設コーナー

「抹茶茶わん」

* 以前に作られた作品でも、一度出展した作品でもかまいません。

○ 出展料は「友の会」への賛助金です。

作品は並べば良いというものではありません。ゆとりを持って展示できるように区画

を申し込んでください。

○ 作品の「申し込み締め切り期日」を守ってください。

申し込みの区画数で会場の設計をおこなっています。

当日、机を増やすなど混乱しますので、ご協力をお願いいたします。

不十分な点多々あるかと思いますが、皆様のご意見をお聞きし来年度に活かしていきたいと思えます。

事業部



本年度作品展より





作品展より



遊び心で作ったヴァイオリン

作品展感想文

逢阪 博樹

今回も先輩方の力作に出来映えに、本当に感動しました。どの作品も仕事丁寧で、心がこもっておられました。私は今回も新たな発見と教えを数多く頂くことが出来ました。大皿を一度で引き上げる方法や、釉薬の重ね方など、有難うございました。

毎年何を作ろうかと悩みます。皆さんの器、花器、茶器、酒器、皿、ランプシェード、人形、置物等を毎年拝見させて頂くなかで、気後れし悩んでしまうのです。数年前にピアノを作ったことがあり、次はヴァイオリンと思っていたので、秋口から取り掛かりました。出来上がった中にオルゴールを入れようと曲はヴァイオリン協奏曲で・・・名前だけは一人前ですよ！

型づくりが出来たところで実物を見て、ショックでした。全く形が違ったのです。そこでもう一本作り、弦楽二重奏として誤魔化そうと考えたのです。素焼きの段階で竿が折れてしまい再度チャレンジ、本焼きも終わり今度はオルゴールが問題となりました。横浜の東急ハンズになく、渋谷まで足を伸ばし、何とか間に合わせました。

最後の仕上げは弦張りです。テグスを考えたのですが、面白みに欠け、針金でチャレンジしましたが上手く通せず、3時間も掛かっ



逢阪さんのバイオリン素敵でした～ 会場のつがやき

て取り付ける始末です。私には土日の時間しかなく、どの作品も一発勝負でやらざるを得ません。今回もヒヤヒヤものでしたが、本物の焼き物が多い中、遊び作品のオルゴールをならして下さる方もいてとても嬉しくなりました。また問題発生。次回は何作ろうか？皆様また宜しくお願いいたします

秋期焼成会の準備

専修部

作品展時、専修部コーナーでお知らせしたように、専修部秋期焼成会は今年も「木の葉天目」をメインテーマにします。昨年の焼成以来専修部で独自に焼成を重ねた結果、一度天目を焼成し、その後葉を乗せ素焼き、本焼きをしたほうが高い確率で木の葉が転写されそうなので、この方法を取りたいと考えています。したがって作品受付時に本焼き済みの作品をご持参ください。昨年木の葉が出なかったものを再度焼成しても構いません。また昨年同様素焼き済みの参加も受け付けたいと思います。以上をまとめると

- 1 木の葉天目に参加される方は、焼成済みの天目作品をご持参下さい。(どうしてもご自身で焼成が出来ない方は、7月上旬までに、井上(090-5804-9741)までご連絡下さい。こちらで焼成する用意があります。8月中旬焼成予定。)
- 2 素焼き済み作品での参加も受付します。その場合受付時に施釉して頂きます。
- 3 昨年同様、木の葉を押える陶片をご持参ください。
- 4 勿論、木の葉天目以外の作品も受付いたします。

次の「友の会だより」にて日程等の詳しいお知らせは致しますが、焼成は9月の予定です。事前の準備を早めにご利用いたします。

木の葉天目の焼成 今年の秋期焼成会のメインテーマです

横浜陶芸友の会 専修部

手順

- 1、この葉は棕、ケヤキ等の葉脈に珪酸分の多いものを選ぶ。また、秋の熟成した葉が理想です。



- 2、素焼きし、天目釉を施釉した器に葉裏を上にして入れ素焼きの押え型を押えとして葉の上に置く。又は、本焼き済みの天目の器の上に葉を上記のごとく置く。



- 3、700~800度で素焼きをする。(葉の灰化)



- 4、灰化のしっかりしたもののみ本焼きをする。完成



*** 是非、ご参加ください。 今年はきっといいよ~!!**

陶陶さん

第 83 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより 第 161 号

(平成 27 年 4 月 1 日発行)

発行人 横浜陶芸友の会
会長 高橋 光男

編集責任者 広報部長 吉良謙

訃報

平成 27 年 3 月 16 日 八田高明さんが
ご逝去されました。

八田さんは以前 副会長をお引き受けく
さり、会に大変 貢献してくださいました。

心よりのご冥福をお祈りいたします。



(写真は平成 25 年 11 月
高木三次さんを偲ぶ会での写真です。)

総会のお知らせ

5 月 16 日 (土) 13 時より

杉田地区センター 4 階集会室 A

(最寄駅 京浜急行杉田・J R 新杉田)

・友の会発足 40 年を迎え記念行事の企画提案等を話し合いたい
と思います。また昨年 2 回行ったアンケート結果等について意見交
換が出来たらと思っております。

より多くの方が出席される事を楽しみにしております。

前回役員会 (2 月 28 日)

- ・ 40 周年記念行事のために実行委員会を立ち上げる。
- ・ 窯場見学会は立案者がいれば、事業部が支援する。
- ・ 各部会は 3 月 25 日までに会計報告の事

・・・など話し合われました。

次回役員会

4 月 11 日 (土) 18 時 30 分より 杉田地区センター集会室 B

(平成 27 年度総会に向けての準備)

総務部より

編集後記

年初の「横浜陶芸友の
会・作品展」では毎回ユ
ニークな作品が数多く
出品されるのを観るの
が楽しみです。今号の
「友の会便り」ではそれ
等を良くお伝えするた
めに、カラーで掲載しま
した。加えて専修部の
「木の葉天目」のリポー
トもカラーで良くわか
ると思います。今秋の焼
成会にこの記事を見た
人が多く参加され、記事
がお役に立つことにな
れば幸いです。

季楽軒